

朝の館内放送

令和6年12月2日

おはようございます、市長の中村健です。

名鉄の西尾駅から蒲郡駅までを結ぶ西尾・蒲郡線、通称にしがま線については、令和7年度までの存続が決まっているものの、8年度以降の運行は未定の状況にあります。

この十数年、西尾市としても年間で約1億5,000千万円の支援金を払うとともに、数々の利用促進策を講じてきました。

その甲斐もあって利用者数は順調に伸びてきましたが、コロナ禍によって激減。

新型コロナが5類感染症に移行後も、生活様式の変化などの影響もあり、利用者はコロナ前の水準まで戻っていません。

そのような状況での存続交渉になることから、非常に厳しい交渉を強いられているのが現実です。

さて、にしがま線の存続については、替わりにバスを運行すればいいのではないか、年間で1億5,000万円も支払うのはもったいないのではないかという意見も聞きます。

しかし、にしがま線は学生の通学の足として貴重な役割を果たしているだけでなく、万が一廃線になることがあれば、沿線の土地価格が下がることによる税収の減少、道路渋滞の発生など、日常生活で電車に乗らない人にも大きな影響を与えます。

そして、廃線になった他のローカル鉄道を抱える沿線の例を見ても、廃線になれば地域の衰退が加速化することは目に見えており、特に西尾市の南部はまちづくりの面において致命的なダメージを受けます。

7年度末を持って廃線とならないようにするのが重要なのはもちろんのこと、今後も末永く存続していく路線にしなければなりません。

そのためには、他人事として考えるのではなく、自分事として考えてくれる人をどのように増やすことができるか、これに尽きると考えます。

職員の皆さんにおいても、通勤での利用、休日に外出する際の利用など、自分の生活の中で電車を利用することが無理のない範囲でできないか考えてもらうとともに、にしがま線が西尾市にとっていかに重要であるか、身の周りの人に伝えていただけると

助かります。

みんな、にしがま線を存続させていきましょう。

以上で、朝の館内放送を終わります。